

山河

一般社団法人
満蒙開拓平和記念館
代表理事 寺沢秀文
〒395-0303
長野県下伊那郡
阿智村駒場 711-10
TEL 0265-43-5580

ピースサポーターニュース 2025 年冬号 第 75 号

お知らせ

【土曜セッション】

第 8 回 11 月 8 日(土) 久保田桂子さん

北村 彰夫さん

第 9 回 12 月 14 日(土) 山中 悠子さん

※1 月はお休みします。

【演劇公演「鴨居に朝を刻む」】

11 月 15 日(土)、16 日(日)

黒川分村開拓団の史実が私たちに投げかけるもの

今年の7月に公開されたドキュメンタリー映画「黒川の女たち」(松原文枝監督)が大きな反響を呼び、当館にも視聴された方が何人も来館され、さまざまな問合せもありました。ここでは改めて、黒川開拓団について紹介します。

1. 黒川開拓団の概要

岐阜県加茂郡白川町の旧黒川村が送り出した分村開拓団。1942 年から渡満が始まり終戦時には約 130 戸 660 人が在籍した。入植地は当時の吉林省扶余県陶来昭鎮。首都新京とハルビンを結ぶ鉄道のちょうど中間地点。近くには第二松花江という大河が流れ、満州の北と南を分ける分水嶺のような場所だった。

2. 終戦後の団で起きたこと

ソ連軍侵攻、日本敗戦となり周辺の現地住民からの激しい襲撃を受け、「女子供は裸にされて逃げまわる」状況となる。隣に位置した九州の来民開拓団は 8 月 17 日に集団自決に至り、一人生き残った人物が黒川開拓団に逃げ込みその惨状を伝える。9 月に入り応戦の中で犠牲者も出た。自決の声もあがる中、団を守るために近くに駐留しているソ連兵に警備を頼み、その見返りとして未婚女性たちを差し出すことが決まる。結果、二十歳前後の女性たち 15 人が交代でソ連兵たちの相手を強いられ、うち 4 人が性病や感染症などで亡くなった。

3. 「乙女の碑」の建立

黒川開拓団は引揚げ直後の 1947 年から地元の佐久良太神社で慰霊祭を開催。1961 年には招魂碑建立、その後は隔年で慰霊祭を続けている。1981 年の訪中後、亡くなった女性たちを慰霊する「乙女の碑」という地藏菩薩が 82 年に招魂碑の隣に建立された。その時は碑文も何もなかった。

4. 記念館での証言

黒川分村遺族会の現会長である藤井宏之さんは、初の戦後世代の会長として 2011 年に就任。記念館開館前から連絡をくださり交流をしてきた。開館 2013 年の 7 月から始まった語り部定期講演に開拓団の女性を連れて来てくださり、佐藤ハルエさん、安江善子さんが性被害の話初めて公の場で語る。

5. 遺族会の取り組み

その後、メディアなどでさかんに取り上げられ、黒川開拓団の話は広く知られることになる。旧満州での性暴力被害を当事者自ら証言したことで衝撃をもって受けとめられ、さらに開拓団が組織的におこなったことで日本社会の構造的な問題としても批判の対象となっていく。

しかし、遺族会はさまざまな取材に胸襟を開き誠実に対応されてきた。「女性たちの声を聞いてやってほしい。」藤井会長はいつも言っておられる。会としては不都合な史実であり、長年この史実は伏せられていたものだったが、「あったことをなかったことにはできない」と。そして 2018 年、遺族会は「乙女の碑」の隣に碑文を建立。女性たちに強い犠牲と女性たちの声を刻んだ。

最晩年で声をあげた女性たちの思いを受けとめたのは次世代の人たちでした。記念館も遺族会の皆さんと共に、この史実に向き合い続けていく覚悟です。センセーショナルな話題として扱われがちな性被害ですが、極限におかれた集団の中で弱い立場の人々が犠牲になる社会を許してはならない。これからも、この史実が投げかけてくるものを皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。



佐久良太神社境内にある乙女の碑と碑文

「乙女の碑」

岐阜県加茂郡白川町黒川7568

佐久良太神社境内

Google Map →

